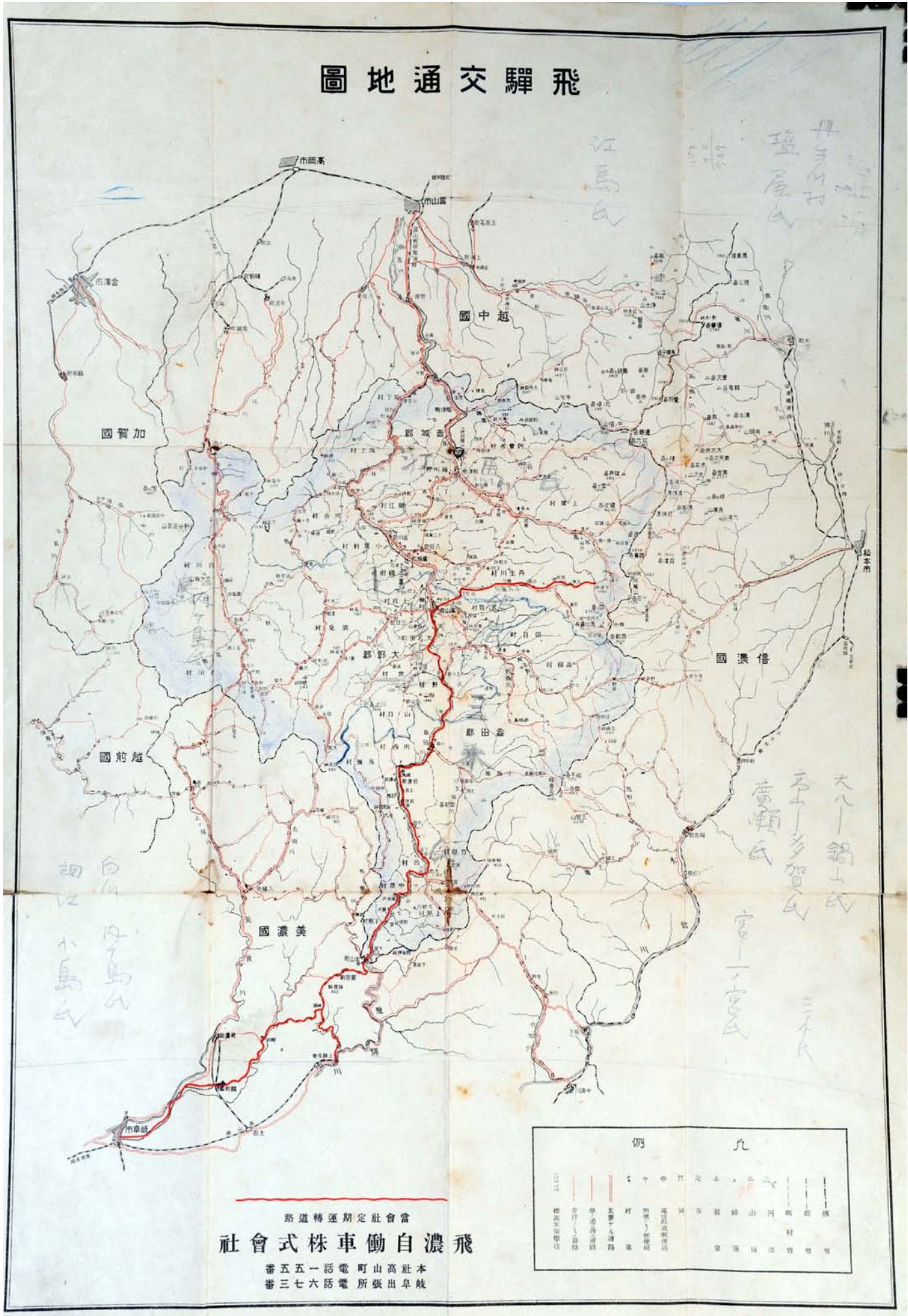


# 飛驒交通地圖



當社會定期運轉道路  
**飛驒自働車株式會社**  
 本社駐高山町電話一五五番  
 岐阜出張所電話六七三番

例		凡	
——	國道	——	河川
——	主要道路	——	山
——	普通道路	——	村
——	支線	——	町
——	支線	——	郡
——	支線	——	縣
——	支線	——	國

## (53) 飛驒交通地図

### (飛濃自働車株式会社定期運転道路) (第 85 図)

年代 大正 14 年 (1925) 11 月 1 日再版

(大正 14 年 8 月 1 日初版)

印刷発行人 住廣造

寸法 51.8×36.5

所蔵 高山市教育委員会 (角竹文庫)

この図は「飛濃自働車株式会社」が、定期運転道路を表示するために作った交通地図で、活字は小さい。越中国、信濃国、美濃国、越前国、加賀国の飛驒への隣接部分が記されている。

「主要ナル道路」は赤色の二重線で、「車ノ通ジ得ル道路」は赤色の単線、「歩行ノミノ道路」は赤色の点線で記される。電信取扱郵便局は㊦の印が付され、久々野、小坂、三日町、夏厩、廣瀬町、町方、旗鉢、本郷などがある。また、郵便のみの郵便局は㊧の印が付され、今見、大原、甲、上ヶ洞などがある。

街道を見ると、①江戸街道方面は野麦峠が主要道路で赤色の単線、日和田～長峰峠は歩行のみの道路で点線となる。町方からエビス峠越えをして長倉へ通ずる道は、車道となっている。

②越中街道は、今村峠越えが記されず、十三墓峠越えは蔵柱を通過して本郷への車道となっている。杉崎から神原峠を越えて山田、船津へと通ずる道が二重線の主要道路となっている。この道は大正 14 年当時の越中東街道とされることもある。

③郡上白川街道は三日町で分かれる大原経由の郡上街道と、六厩、牧戸経由の郡上街道の 2 本とも二重線、一部単線の車道となっている。

④尾張街道は金山まで現在の国道 41 号で、金山から菅田、袋坂、神淵、殿村、関町、岐阜市へと通ずる。

飛濃自働車の定期運転道路は、平湯峠頂上 (平湯まで延長されていない) から袋坂経由の岐阜市までである。高山線が開通する前の、定期運送を知ることができる道路図である。

鉛筆により、角竹喜登 (註 1) の戦国時代武将たちの書き込みがある。また、飛驒の部分には青色鉛筆による縁どりがある。

註 1 角竹喜登は『高山市史上・下巻』を編纂した。

※掲載されている情報 (文章、写真など) は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。